

## 演劇的要素を持つ音楽科教材

子どもの意欲や関心を大事にする教材としてのその魅力

The music course teaching materials having a dramatic context  
Charm of the teaching materials  
regarding will and interest of the child as important

八代 健志 (福井大学)

Takeshi YASHIRO (Fukui University)

(キーワード)

演劇体験の教材、主体的な音楽活動、

### 1.はじめに

主として小学校での音楽科の“表現の活動”に於いては、指導者が「今日はこの歌を歌いましょう」と、教材曲を教室に持ち込み、その教材を子どもたちが歌ったり楽器を演奏したりする活動で様々に学んでいく、というスタイルで授業が進むことが多い。しかし、その形でのみ指導を進めていくと、小学生たちは「表現したい」という内発の欲求を持つことがだんだん難しくなり“学年が上がるにつれて割合が増える”との説が有力な「音楽は好きだけれど音楽科はキライ」という気持ちにもつながっていくのではないかと。

子どもの「表現」を、①内から発する表現欲求②素材を媒体に③新たな気づきを得る④他者の存在という四要件で定め、その枠組みの中で、演劇的要素を持つ音楽科教材は、子どもたちの『表現したい』気持ちを大事にしながらか指導できる魅力があることを考察してみたい。

### 2.目的

演劇的要素を持つ音楽科教材を、筆者の「子どもの『表現』についての定義」から検討し導いた「主体的な音楽活動を保障し、その中で楽しく学べる。」点に関し、H県I市立J小学校K先生の3年生の授業実践(2021年2月実施)から確かめる。

### 3.方法

こどもの表現の四要件について十分に説明をしたK先生に演劇的要素を持つ音楽科教材「ぞうのたまごのたまごやき」(寺村輝夫原作:八代健志台本:3年生対象)の授業実践をお願いし、その実践報告の中から子どもの主体的な表現活動の様子を探る。

### 4.結果と考察

教員の側から「校長先生、見に来てください、という声掛けがすごかった。頑張ってるところみてほしいんやな」や、「音楽の苦手そうな男子が木琴や効果音の演奏をしているのが良かった。苦手な子にも音楽ができると思ってもらうのは大事」そして「こんなにできる子たちとは思わなかった。予想以上だった」などの感想があった。一方、子どもの側からは「いろんな楽器を自由に使って効果音を考えるのが面白かった」「また来年もこんな劇をやりたい」等の感想から、「表現したい」気持ちを持って主体的に音楽活動に取り組めたことが見て取れた。

### 5.結論と今後の課題

演劇的要素を持つ音楽科教材が、小学校中学年の児童に対して、主体的な音楽活動を保障し、その中で楽しく学べることを確かめられた。

今後、学びの中身としての指導内容の、知覚と感受の様子をさらに詳らかにしてゆきたい。